

和歌山県白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所構内の一角で羽化したクマゼミの個体数(半翅目, セミ科)

Number of emerged individuals of *Cryptotympana facialis* (Hemiptera, Cicadidae) at a corner of the Seto Marine Biological Laboratory, Kyoto University, at Shirahama town, Wakayama Prefecture, Japan

久保田 信

和歌山県白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所の構内にある白浜水族館の西側の小さな出入口付近では、毎年、夏になるとクマゼミ *Cryptotympana facialis* (半翅目, セミ科) が羽化する。その一角にはマサキやハマユウなどの草木があり、それらの枝や葉の上、加えて白浜水族館の壁で羽化が見られる。この限定された小区域で、2012年に総数で65個体のクマゼミが羽化した(久保田, 2012)。今回、2014年に同じ一角で再びクマゼミの羽化数を調べたので記録する。

2014年7月1日から約1ヶ月間、調査区域でクマゼミがどれほど羽化するか、ほぼ毎日数えた。今回の調査では羽化の高さにも留意した。7月1日から8月3日まで羽化があり、総数は106個体に達した。この内の約半数までの羽化が7月中旬までに起こった。1日あたりの羽化数が特に多かったのは11日から13日で、それぞれ、9, 10, 9個体だった(その前後の日は7個体と4個体)。終盤の7月23日から7月29日まで羽化は全く見られず、7月30日から8月3日までが毎日1個体ずつだった。総数の内、水族館の壁(2014年7月初旬の再開館時に先立ち壁は塗り替え済み)で羽化したのは19個体で、残りは草木の上であったが、マサキの上が最も多かった。羽化の高さは3m以内が多く、これよりも高い場所での羽化は、水族館の壁やマサキ上での21個体だった。

前回の結果(久保田, 2012)と比較すると、2014年は2012年よりも羽化数が多かった(41個体増加)。また、羽化した場所の高さは、2年の調査とも3m以下で行うことが大半だった。これまでこのような2回の定量調査を実施したが、今後も継続調査をして羽化数の経年変化を調べる予定である。

引用文献

久保田 信. 2012. 和歌山県白浜町で脱皮殻上で羽化したクマゼミ (カメムシ目, セミ科).

KINOKUNI, (82) : 16.

(くはた しん 〒649-2211 西牟婁郡白浜町臨海459 京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所)